

第2章 市民中心の行動計画について

WHOはエイジフレンドリーシティの推進において、「高齢者をはじめとする市民が計画、実施、検証のあらゆる段階に主体的に参加していること」を、重要なポイントとして挙げています。

そのため行動計画を策定するにあたり、秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画作業部会を設置し、「高齢者を策定過程のみならず、計画、実施、検証のあらゆる段階に参加させていくための仕組みづくり」のきっかけづくりとしました。

作業部会では、高齢者を含む参加市民が主体的に取り組むことができる具体的なテーマを2つ設定し、ワークショップ形式で課題解決や新たな取組について協議し、最終的に4つの「エイジフレンドリーを実現するための具体案」が提示されました。これらの取組は、市民と行政が連携しながら、市民自らが主体となって、活動することを念頭にした「新しい仕組み」として提案されたものです。今後はこの具体案を発展させ、着実な実施を目指していきます。

さらに、行政、企業、団体、市民が協働体となり、エイジフレンドリーシティについて新たなネットワークで取り組むことができるよう、体制構築へとつなげていくことを目指します。

1 庁外作業部会について

(1) 庁外作業部会のテーマ設定

作業部会のテーマには、「秋田市エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)構想に関する提言書」(秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会、平成23年5月)の“特に重点的に取り組むべき課題”、秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」成長戦略における重点プログラムを参考とし、市民が主体的に実践しやすい2つをテーマに設定しました。

秋田市エイジフレンドリーシティ(高齢者にやさしい都市)構想に関する提言書

○ 特に重点的に取り組むべき課題

- ・ 高齢者や高齢社会に関するマイナスイメージの払拭とプラスイメージの創出
- ・ バリアフリー化の推進
- ・ 交通手段の確保
- ・ 高齢者の孤立防止

秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」

○ 成長戦略の4つの重点プログラム

- ・ エイジフレンドリーシティ構想の普及啓発
- ・ 高齢者の多様な能力の活用
- ・ バリアフリー化の促進
- ・ 高齢者の交通手段の確保

(2) 作業部会テーマ1について

① テーマ

身近な場所のエイジフレンドリーを考える「商い・人・まち」

② 概 要

- ・商店街という特定の場面において、高齢者の孤立対応、高齢者が利用しやすい商店、買い物弱者対策など地域活性化につながるアイデアを考える。
- ・行政がすべきこと／商店街で取り組むべきこと／地域住民が取り組むこと／地域とNPOのコラボレーションでできることなどを考える。

③ 解決が期待される課題

身近な地域での支え合い、高齢者の孤立対策、買い物弱者対策、高齢者に配慮したサービス、世代間交流、交通手段の確保など

④ 参加者（名簿登録者）

25名（商店振興組合、市民活動団体、老人クラブ、民生委員、地域住民、大学生、エイジフレンドリーシティ行動計画策定委員会委員、市職員など）

⑤ 開催経過

	日 時	会 場	参加者数	主な内容
1	平成24年 10月 3日	民俗芸能 伝承館	15	・参加者自己紹介 ・意見交換 「高齢者の強み・弱み」
2	平成24年 10月25日	民俗芸能 伝承館	15	・意見交換 「高齢社会の強み・弱み」 「通町、大町商店街の強み・弱み」
3	平成24年 10月31日	民俗芸能 伝承館	12	・意見交換 「通町、大町商店街の強み・弱みの検証」「通町、大町商店街の特性を活かした行動計画案」
4	平成24年 11月 7日	民俗芸能 伝承館	11	・前回の整理 ・意見交換 「商店街の特性を活かした行動計画案の具体化」
5	平成24年 11月19日	民俗芸能 伝承館	12	・意見交換 「全体での行動計画案の振り返り、整理、決定」 「グループ毎に行動計画案の具体化」
6	平成25年	民俗芸能	9	・これまでのふりかえり

1月18日	伝承館	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク 「事業案の再チェック」 意見交換 「実行のための組織のあり方について」 提案 作業部会テーマ2からのプレ企画 まとめ
-------	-----	---

(3) 作業部会テーマ2について

① テーマ

エイジフレンドリー普及啓発情報発信

② 概要

- ・高齢化のマイナスイメージを払拭し、プラスのイメージを創出する情報発信について考える。
- ・メディアを活用したエイジフレンドリーシティの普及啓発について考える。

③ 解決が期待される課題

高齢者や高齢社会に関するマイナスイメージの払拭とプラスイメージの創出、エイジフレンドリーシティ構想の普及啓発、高齢者の多様な能力の活用など

④ 参加者（名簿登録者）

14名（NPO団体、アルヴェサポーターの会、市民リポーター、絵本作家、エイジフレンドリーシティ行動計画策定委員会委員、市職員など）

⑤ 開催経過

	日時	会場	参加者数	主な内容
1	平成24年 10月15日	アルヴェ 市民交流 サロン	11	<ul style="list-style-type: none"> 参加者自己紹介 意見交換 「高齢者の強み・弱み」 「高齢社会の強み・弱み」
2	平成24年 10月30日	アルヴェ 市民交流 サロン	9	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換 「情報の発信相手は？」 「どの主体（相手）に何を期待するか？」 「事業案のアイデア出し」
3	平成24年 11月5日	アルヴェ 市民交流 サロン	11	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換 「行動計画案の絞り込みとシール投票」 「ワークシートを使った行動計画案の具体化」

4	平成24年 11月21日	アルヴェ 市民交流 サロン	10	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換 「全体での行動計画案の振り返り、整理」 「行動計画案の精査と追加のアイディア出し」
5	平成24年 12月4日	アルヴェ 市民交流 サロン	10	<ul style="list-style-type: none"> 報告 「策定委員会参加の報告」 意見交換 「実施可能な事業案の検討について」 「組織について」
6	平成25年 1月15日	アルヴェ 市民交流 サロン	8	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク 「事業案の具体化」 意見交換 「実行のための組織のあり方について」 提案 プレ企画「大町・通町で『どーも』を探そう！」について まとめ



2 行動計画

計画案1 お店のうらがわが見える！1日店長さん (作業部会テーマ1)	
期待される 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・年代を超えた魅力的な商店街づくりで、商店街と地域を活性化 ・お店、1日店長、お客さんとのコミュニケーションづくり ・市民（高齢者）による自己実現の場
イメージ	<p>通町・大町商店街のお店の協力を得て、市民が1日店長となる。1日店長は、高齢者限定にせず、年齢を問わず体験できる。これが「友達や孫が1日店長をやっているから、私も見に出ていこうかな。」と高齢者が外出するきっかけも生み出す。また1日店長は、新たな視点で商品開発等にも関わる。オリジナル商品の企画開発に関わることで、地域、商店街、街への愛着が生まれる。</p>
事業展開の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・商店振興組合、商店主から理解と協力をきちんと得る。 ・活動を推進するための組織をつくり、代表者を決める。 ・通町、大町の人々の意見を聞き、取り入れる。 ・情報発信はメディアを活用し、できるだけ多くの人々へ周知する。 ・一過性の事業にしないよう、無理はしない。 ・通町の「通の市」と連動し、相乗効果が出るようにする。
計画案2 街のコンシェルジュ (作業部会テーマ1)	
期待される 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が外出し、人と人がつながるきっかけづくり ・市民が街に興味を持つきっかけづくり ・人に会いにくる魅力的な商店街づくり
イメージ	<p>街のコンシェルジュを育成する。例えば、食、歴史、神社などテーマ毎のグループを作り、持ち回りで街歩きツアーを実施する。様々な年代の人がコンシェルジュとなり、100人の育成を目指す。</p> <p>さらに学びの場、交流目的のサロンを開いたり、商店街検定の実施、コンシェルジュ認定証の交付などもおこなう。</p> <p>商店街を核に様々な年代や分野の人が交流することで、街へ愛着を持ち、新たな付加価値を生み出していくことができる。</p>
事業展開の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ毎コンシェルジュを養成し、一人ひとりの負担を軽減する。 ・老人クラブや商店街、民生委員、町内会、企業などからの協力が不可欠である。 ・続けることで評価を高めることが必要である。

ワークショップから生まれた言葉

誇りに思える街、秋田っていいな～。

計画案3 イベント実行委員会の発足		(作業部会テーマ2)
期待される 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民にエイジフレンドリーシティの情報を発信できる。 ・高齢者が活躍する場ができ、笑顔で元気な高齢者が増える。 ・イベントに関わることで年代を超えた交流ができる。 	
イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・エイジフレンドリー AKB の発足 若者の目標になるような尊敬できる高齢者48人を、リレー式に情報発信、市政番組や市広報誌「広報あきた」などで紹介する。 ・エイジフレンドリーにぎわい音頭や漫談 地域別に特色あるものをつくったり、みんなが覚えやすい振付で筋力アップと介護予防し健康づくり、漫談で笑って健康になるキャンペーンを展開、キャラバン隊になって各地域を訪問する。 ・自慢大会 長年続けていることの自慢大会や、何かに役立てることができるようにオークション形式の大会を実施する。 	
事業展開の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台は大がかりに行う。 ・インターネット発信など、情報媒体を工夫する。 	
計画案4 エイジフレンドリー発掘委員会の発足		(作業部会テーマ2)
期待される 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民にエイジフレンドリーシティの情報を発信できる。 ・ロールモデルを紹介することで意識の共有が図れる。 ・年代を超えた情報発信で交流の場が広がる。 	
イメージ	<p>街なかの「これってエイジフレンドリーだね」を発掘し、情報発信していく。例えば、高齢者にやさしい店、高齢者にやさしいもの（高齢者に限らず、みんなにやさしいという視点も入れる）等を見つけて、情報発信する。（参考：アイルランドのエイジフレンドリーレストランガイド）</p> <p>他に、「思いやりコンテスト」「小中学生による作文募集」「年齢制限をしない企業の紹介」「紹介したい地域の宝の人」などで、エイジフレンドリーを発掘し情報発信していく。</p>	
事業展開の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介するときは、お店などの賛同を得やすいように、きちんとメリットを伝えて紹介する。 ・多様な情報媒体を活用することであらゆる世代に情報発信する。（市の広報媒体のほか、facebookやSNSなども上手に活用しよう） 	

ワークショップから生まれた言葉

「生きててよかったね。」の街

3 今後に向けて

地域の商店主、住民、NPO団体、学生など、様々な年代や立場からの参加者によって進められた作業部会では、終始前向きで活発な議論が交わされただけでなく、参加者同士の新たな交流と、計画実施に対する参加意欲が生まれる場にもなりました。作業部会では高齢者、若者、商店関係者、子育て世代など、それぞれの立場について相互理解を深めながら、地域のあり方や将来の方向性について課題解決や新たな取組を考えることで、エイジフレンドリーシティに対する理解が参加者一人ひとりに形成されました。これは、小さな形の普及啓発ですが、市民自らがまちのあり方や将来の方向性について考えることを通して、高齢者や高齢社会に対して理解を深めたことは、大きな意義がありました。

作業部会では、自らの企画により、テーマ1・テーマ2合同交流会が開催されたり、実際に「街歩き」を行い、商店街のエイジフレンドリーを探す活動が行われるなど、既に主体的な活動が動き出しています。こうした参加者の意欲あふれる活動が、今後も継続していくことが、行動計画の実現においても非常に重要となります。

そこで市は、作業部会参加者を中心とする市民の活動がさらに継続発展するよう、自主性、自立性、多様な活動を損なわない形での協働体制を築きながら、行動計画の具体的な実現をともに目指します。

また、市民が新たに主体的に取り組もうとするエイジフレンドリーな取組や活動について育成支援し、市民同士のつながり、市民と市のパートナーシップについても醸成します。

今後は、より多くの市民が主体的に関わり、その活動が市全体に広がっていくことが不可欠です。地域社会全体の意識変化を促しながら、これまでの行政主導型の市政運営から、行政、企業、団体、市民が共同体となり、地域全体でエイジフレンドリーシティに取り組む体制構築について、次期行動計画策定時を目指し推進していきます。

第3章 行動計画施策体系図

(別紙)